

第9回専門医会学術集会報告

代表世話人 北海道大学病院リハビリテーション科 池田 聡

このたび、鹿児島で第9回日本リハ医学会専門医会学術集会が開催される運びとなり、世話人を仰せつかり大変光栄に存じます。テーマは「**基礎医学から臨床応用へ**」とさせていただきます、リハ医学の基礎研究の重要性につき再確認するとともに臨床へとつなげていく展望につきディスカッションを深めるべく準備をいたしました。今回の学術集会では新専門医会設立時の目的である専門医による研究・レベルアップ、専門員の交流、若手専門医の育成を念頭に世話人企画、各SIGに企画をお願いし開催することができました。

会期は2014年11月15日(土)・16日(日)の2日間、会場は鹿児島市民文化ホールで、天候にも恵まれ、会場からは桜島の雄大な姿を目にすることができました。

初日は、開会式に引き続き専門医会基礎研究SIGによる企画でシンポジウム1「基礎研究から臨床応用へ」が開催されました。藤田保健衛生大学の向野先生、浜松医科大学の山内先生、徳島大学の東野先生、関西電力病院の梅本先生が発表され、今後のリハにおける基礎研究の重要性、若手リハ医へのアドバイスなど活発な討議が行われました。次に教育講演1として、来年の専門医会学術集会代表世話人である昭和大学の笠井先生による「リハビリテーションと音楽療法」の講演をいただきました。先生のご経験された音楽による機能回復例、今後の臨床応用などについて紹介されました。

ランチョンセミナー、総会を挟み午後からパネルディスカッションとして「リハビリテーションのトピックと専門医」を企画し慶應義塾大学の大高先生にロボット、藤田保健衛生大学の岡崎先生に摂食嚥下、筑波大学の篠田先生からリハ科医のキャリアパス、産業医科大学の松嶋先生からポストポリオ症候群のご講演をいただき、最新の研究と今後の専門医会・若手専門医へのご意見等をいただきました。

教育講演2では、長寿医療研究セン



ターの近藤先生に最近のトピックである高齢者の虚弱(フレイル)と、今後ますます需要が増加するであろう高齢者のリハについて解説していただきました。教育講演3は、RJNと共同企画で外部講師をお呼びし、耳鼻咽喉科を開業されながら女性医師のための保育園を開設運営されておられる池田美智子先生に保育支援の現状と課題、実際の御苦労などお話しいただきました。

教育講演4は旭川医科大学の大田哲生先生から、新規にリハ科を開設された御苦労などをお話しいただきました。

脊髄障害SIG企画では、脊損患者の歩行再建の実演、痙縮治療SIGによるボツリヌス治療とITB治療のハンズオンセミナーが行われました。

夕刻からは、意見交換会を開催いたしました。リハ学会理事長の水間先生にご挨拶等をいただき専門医間の交流を深めることができました。

2日目は朝早くからシンポジウム2で、急性期医療を実際にこなしておられる先生方に現状と問題点を討論していただきました。北海道大学の磯山先生に移植医療、飯塚病院の黒木先生に内部障害、杏林大学の山田先生に脳卒中の急性期、熊本大学、大串先生に大学病院の急性期リハをお話しいただき、今後の展望につきディスカッションが行われました。

教育講演5は川崎医科大学の花山耕三

先生に、神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハをご講演いただき、学会監修のガイドラインの概説をしていただきました。教育講演6は金沢大学の八幡先生に「リハビリテーション診療で遭遇するかもしれないピットフォール」をお話しいただきリハ科医ならではの診療のポイントを講演いただきました。教育講演7は岐阜大学の青木先生から障害者スポーツへの帯同を通し貴重なご経験をご講演いただきました。2日目のSIG企画では切断・義肢SIG電動義手ハンズオンとして実際のデモをいただき電動義手処方ポイントの演習を企画していただきました。専門医・指導医更新に必要な医療倫理・安全研修指定講演は滋賀県立成人病センターの川上先生にご講演いただき、臨床現場での安全管理についてお話しいただきました。午後にはRJNセミナーで「今もっとも求められる医師=リハビリテーション科医師とは」の講演、臨床神経生理SIG企画でハンズオンセミナーが行われ多数の参加がありました。

多数のご参加をいただき無事盛会のように学術集会を執り行うことができました。関係各位に大変感謝いたします。有意義な集会となったと思います。今後も専門医会のますますの発展を祈念いたします。